

## 5 稲を守り育てる 〈5月上旬～9月上旬〉

(3)

### ⑤ 田んぼを一時干す (中干し) 〈6月下旬～7月上旬〉

目標とする穂の数とほぼ同じ数に株分かれしたところから、稲はあまり水を必要としない時期に入って、土の中の根はどんどん増えていきます。また、このころは気温も高くなって土の中の有機物の分解もさかんになり、根に害となるガスの発生も多くなります。そのため、田んぼの水をぬいて土を乾かし、ガスをぬいて新鮮な空気をいれて、根の伸びを促してやります。この時期に田んぼの水をぬいて乾かすことを中干しといいます。



中干しですっかり水が抜かれ表面の乾いた田んぼ

### ⑥ 肥料 (追肥) をあたえる 〈7月中旬～7月下旬〉

茎の中に穂ができ始めるころから、葉の色が淡くなってくるので、穂の数や茎の中の籾数を増やしたり、実るまでちょうど良い葉の色を保たせるため、出穂\*の20～25日前ころにチッソとカリ肥料を加減しながらあたえます。

\* 庄内地方では8月上旬に出穂期〔しゅっすいき〕を迎えます

### ⑦ 病気や害虫から稲を守る (防除) 〈5月中旬～8月中旬〉

この時期は稲の大敵いもち病をはじめ、さまざまな病気や虫が発生しますので、地域別に定められた防除基準を守って防除します。



無人ヘリは高度2～3メートルの超低空を飛ぶため防除のための薬剤を効率よく散布できる